

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0007
住 所 川崎市川崎区駅前本町12番1川崎駅前ターミナル10階
氏 名 株式会社ENEOS NUC
代表取締役社長 岩崎 勉 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社ENEOS NUC		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町8番1号		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第4条第1号該当事業者		
	☐ 規則第4条第2号該当事業者		
	☐ 規則第4条第3号該当事業者		
	☐ 規則第4条第4号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	石油化学系基礎製品製造業		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		55,667 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019年度～2021年度(報告年度2021年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

（1）計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 (2018 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)	目標排出量
排出量 (t-CO ₂)	(実) 101,123 (調) 98,931	(実) 93,278 (調) 91,238	(実) 95,555 (調) 93,049	(実) 103,540 (調) 102,776	(実) 98,089 (調) 95,963
削減率		(実) 7.8 % (調) 7.8 %	(実) 5.5 % (調) 5.9 %	(実) -2.4 % (調) -3.9 %	(実) 3.0 % (調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原単位等の活動量	生産数量				原単位等の単位	t-CO ₂ /千t
	基準年度 (2018 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)		目標とした値
排出量原単位 等の値	973.3	928.1	901.4	770.3		944.1
活動量の値	103.9	100.5	106.0	134.4		-
排出量原単位 等の削減率		4.6 %	7.4 %	20.9 %		3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	設備稼働率低下に伴い、生産数量は昨年から減少した。エネルギー起源のCO ₂ が低下した事により、削減率と原単位目標が達成された。				
第2年度	2020年度の製品生産量は対基準年(2018年)比で2%増えたにも関わらず、エネルギー起源のCO ₂ 排出量は対基準年で5%余り減少し、削減率と目標排出量はクリアしている。主な理由は設備の信頼性が向上（故障頻度が減少）し、計画外の設備のスタート及びダウンの回数が減り、それに使用される無駄なエネルギー（電気、スチーム）の消費が減った事である。				
第3年度	2021年度の製品生産量は、2020年度比で26.8%増加したため、エネルギー起源のCO ₂ 排出量は2.4%上昇したが3年間平均では削減率3.6%で目標排出量は達成した。生産増となったものの原単位が減少した理由は、設備スタート時の加熱スチーム使用時間見直しにより無駄なエネルギー（電気、スチーム）の消費が削減した事および安定運転が継続したことによる。				
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)			3年度は生産数量増加により、CO ₂ 排出量1%削減することが困難であったが、運転操作で原単位を改善することができた。最終的に平均CO ₂ 排出量は、基準年度比3.6%削減を達成した。		
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)			次年度以降、生産数量を増加予定のため、目標達成に向けたエネルギーの進捗管理を実施する。機器の運転条件最適化、スチームロスを行うことでCO ₂ 排出量削減につなげたい。		

（2）温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

2022年度川崎工業所管理目標：2009年度比でCO ₂ （エネルギー起源＋非エネルギー起源）排出量削減15%
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	(1) スチームトラップの保守管理 ・不良スチームトラップの型式変更（配管改造含む）を行い、蒸気ロス削減を図る。 (2) 主要設備等の保安全管理 ・エネルギー使用設備の管理標準の見直しを行う。
第1年度	(1) スチームトラップの保守管理 ⇒スチームトラップの保守管理を行っていたが、計画通りの交換ができず蒸気ロス削減には不十分であった。 (2) 主要設備等の保安全管理 ⇒低圧法ポリエチレン生産時に発生する未反応ガスの回収方法について検討を始めた。
第2年度	1) 高圧ポリエチレン製造装置内のエチレン供給用の1次昇圧機（ポンプ）の循環量低減化による電力削減を計画。⇒ 結果としてポンプにメカニカル上の問題があり、その対策が完了するまでは低減化アクションを先送りとした（2021年度の下半期で改めて計画） 2) スチーム使用量管理強化のために、使用量が多い高圧ポリエチレン製造装置内のスチーム配管に設置されている現場型流量計の信号をDCSに取り込む。（2020年に計画し2021年度内に工事する方針でアクション中）
第3年度	1) 2021年実施予定であったエチレン供給用の1次昇圧機（ポンプ）の循環量低減化運転は補修に時間がかかり、2022年度下期より実施予定。 2) スチーム使用量管理強化用現場型流量計信号のDCS取り込み完了。 3) 設備のスタート・ダウン操作によりスチームロス削減で原単位改善した。
計画期間における取組の評価 （第3年度の報告時に記載）	次年度以降生産量増産計画のため、目標達成に向けてエネルギー使用状況の管理を定期的を実施する。機器の運転条件最適化、スチームロス削減を行うことで排出量削減に繋げたい。

(2) 再生可能エネルギー等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	特になし
第1年度	特になし
第2年度	特になし
第3年度	特になし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	特になし
第1年度	照明設備のLED化実施 ・ 場内照明490灯交換 ・ 街路等149灯交換 ・ 正門照明交換
第2年度	照明設備のLED化実施 ・ 場内照明403灯交換
第3年度	照明設備のLED化実施 ・ 場内照明287灯交換 ・ 事務所棟照明67灯交換

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

（1）事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	101,123 t-CO ₂	93,278 t-CO ₂	95,555 t-CO ₂	103,540 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	51,353 KL	47,902 KL	50,158 KL	55,667 KL
事業所の数	1	1	1	1

（2）事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
川崎工業所	川崎区浮島町 8 番 1 号	101,123	93,278	95,555	103,540

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度